

朝の礼拝

聖書 ローマの信徒への手紙 11 章 33-36 節 (新約聖書 291 頁)

33 ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか。だれが、神の定めを究め尽くし、神の道を理解し尽くせよう。

34 「いったいだれが主の心を知っていたであろうか。だれが主の相談相手であったらうか。

35 だれがまず主に与えて、  
その報いを受けるであろうか。」

36 すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように、アーメン。

### 神の富と知恵と知識

この度の台風19号は各地に甚大な被害をもたらしました。犠牲になられた方々の魂の平安を覚え、しばらく黙祷しましょう。(黙祷)

今、私たちはこれまで経験したことがない豪雨や台風などの異常気象を経験しています。そして、それが温室効果ガスによってオゾン層が破壊され、大気や海の温度が上昇していることが原因だともわかっています。

それは18世紀後半、イギリスで始まった産業革命から始まりました。産業革命は多くの富を生み、便利で豊かな社会への道を開きました。しかし世界は資源を求めて争いを繰り返し、20世紀になって二つの大きな戦争を起こしました。敗戦後、日本はめざましく復興しましたが、それに伴い水質や大気が汚染されました。

確かにガリレオ、ケプラー、ニュートン、ダーウィン、アインシュタインなどの科学者たちにより自然科学の発見、物理学の法則が生まれました。そして天体、宇宙の謎が解明されてきました。しかしそれはあくまで法則や定理であって、その「はじまり」を解明するのは困難だと告白しています。つまり、それは人間が自然や地球に対して謙虚に探究し続けることが大切だと言っているのではないのでしょうか。

初期キリスト教の伝道者パウロは「ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか。だれが、神の定めを究めつくし、神の道を理解し尽くせよう。」と言っています。高い教養と知識を持ち、命をかけた伝道の道を走ったパウロでさえも、最後まで人間は神の前でどうあるべきかを求め続けたのでした。私たちは自然に抗うことはできません。でも自然を探求し、人間はどう生きていくべきなのかを求め続けることを忘れてはいけません。

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。

あなたはパウロを通して「神の富と知恵と知識」を求め続ける道を示して下さいました。どうか、今日一日もすべてをあなたに委ね、御心に適う道を歩ませて下さい。

今、様々な理由によって就学、就労の困難な生徒、教職員のために祈ります。どうか主の慈愛を悟り、主の御前で共に感謝を献げる日をひと時でも早くお与え下さい。

主イエス・キリストの御名によってお願いいたします。アーメン